

# 内閣総理大臣賞受賞

自生していた「ゆず」に着目し、生産・加工・販売までの6次産業化を実現させ、女性達のアイデアや感性を活かす。

こざがわ ひらい さと  
受賞者 古座川ゆず平井の里

ひがしむろぐんこざがわちょう  
(和歌山県東牟婁郡古座川町)

## ■ 地域の沿革と概要

古座川町は和歌山県の東南部に位置し、面積は294.52km<sup>2</sup>、人口3,426人、高齢化率43.3%、四方を山に囲まれた町である。町の中心を古座川が流れ、この川沿いに農地が点在している。町土に占める森林の割合は95.7%と高く、農地が0.3%、その他4%と典型的な山間地の町である。年平均気温は14.4℃で、山間地特有の夜間の冷え込みが厳しい。また、降雨は年間3,300mm以上で、特に梅雨期、8月～9月の台風接近期及び秋雨の時期に多い。

町の中心部から県都の和歌山市までは約180kmあり、国道42号線、JR紀勢本線で、大都市圏（京阪神、中京方面）まで4時間程度必要とする。まさに日本の中央国土軸から一番時間のかかる辺境の地といえる地域である。

かつて町の主な産業は林業であったが、近年国産材市場の不振が続くなかで経営が苦しくなり町の財政基盤も低下している。

町内の農地は階段状で、昭和30年代後半から水田転換や小規模農地開発によりユズが植栽され、今日に至っている。



第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落単位
地区の性格	機能的な集団
農家率	56.6%
	(内訳)
	総世帯数 83戸
	農家数 42戸
販売農家数	(内訳)
	専業農家 2戸
	I兼農家 2戸
	II兼農家 13戸
主要作物 ( )内粗生産額	水稲 (70百万円) 果樹 (70百万円)
農用地の状況	耕地計 7ha
	(内訳)
	田 2ha
	畑 5ha
	樹園地
	耕地率 0.3%
	農家一戸当たり農用地面積 0.28ha

## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

平井集落は、古座川町の中心部から更に古座川を北へ遡った約 30km の距離にあり、総戸数 83 戸、人口 156 人の山間集落である。平井集落に赴くには、自家用車などを利用する以外は、町が委託している「ふるさとバス」が 1 日 2 往復し古座駅まで運行しているのみである。



写真 1 平井集落の様子

平井川沿いの平坦部には水田が広がり、山腹を利用したユズ園が随所に見られる。

昭和 30 年代後半に集落内の農家 2 戸がユズ栽培を開始した。これにより「古座川ゆず」発祥の地とされ、現在は古座川町内で最も多くユズを栽培し、住民の約半数がユズと関わっている。

### 2. むらづくりの基本的特徴

#### (1) むらづくりの動機、背景

##### ア 林業の衰退とユズ栽培への取組

平井集落における用材生産は明治 25 年頃から始まり、人口は急増し、小学校の生徒数も多い時で 100 人を超えたが、昭和 30～40 年代をピークに用材生産事業は衰退の一途をたどった。

林業不振により、過疎化・高齢化が進み集落の存続さえ危ぶまれるようになった。このため、一部農家で自立できる農業を目指し、山間急傾斜地でも栽培できる果樹に注目しつつ、気象条件等を考慮した結果、昔から集落内で自家用に利用していた「ユズ」に着目し、ユズ栽培を開始した。栽培技術の向上と販売の共同化を目指し、昭和 51 年には「古座川柚子生産組合」が結成された。

##### イ ユズ価格の大暴落

栽培面積の増加もあって、ユズの生産量は徐々に増加し、昭和 57 年から搾汁・販売事業を農協に委託するなか、昭和 58 年には平井集落に搾汁加工場を建設するなど、ユズの生産、加工、販売は順調にスタートした。

しかし、ユズ等香酸カンキツ類は、全国的に新植が行われ、栽培面積が拡大し、さらに昭和 62 年は「大豊作」となったことから、青果の市況は前年の約半値と大暴落を起こした。加えて、この年は暖冬による「鍋物需要」の低迷からポン酢メーカーがユズ果汁の購入に消極的になり、大量のユズ果汁が売れ残ってしまうなど、農協や生産者は大打撃を受けた。

### ウ 立ち上がった女性達：「古座川ゆず平井婦人部」

10月～12月のユズ収穫の最盛期、加工場付近の田畑に山のように積まれた搾りかすを見て、なんとか再利用ができないかという意欲を持ち、立ち上がったのが「古座川ゆず平井婦人部」である。昭和60年、女性達20人で結成された。ユズ栽培農家は農協にユズを出荷、農協はユズを搾汁加工、「古座川ゆず平井婦人部」は農協から果汁とユズ皮を購入し二次加工を行うという体制が出来た。その後、商品開発や販路開拓に努力を重ね、平井婦人部の加工事業は順調に伸びていった。

### エ 地産地消に取り組む：「平井友の会」

平井集落の生活研究グループ（「平井友の会」）は地域産物の利活用や食文化の伝承等を通して地域の活性化に取り組み、みそづくりや郷土料理の伝承、地域の産物を使った料理の研究や、慶弔時の仕出し料理や餅づくりの受注、野菜の直販活動など、地域内に向けた活動を行って来た。

### オ 「ゆず対策協議会」設立

平成8年、ユズは全国的な不作となり、安定供給できなかつたことから農協は多くの取引先を失った。以後販売不振が続き、平成11年は加工用ユズ買取価格が急落、翌年にはそれに加えて買取量も制限された。

平成12年度にユズ産地の危機的状態を乗り切るべく生産者、町、普及センター、試験場、農協等により「ゆず対策協議会」を設立した。「ゆず対策協議会」では生産・加工・販売の一元化について検討する一方、当面の課題は生果、果汁及びユズ加工品の販売促進であると認識し、生産者には生果出荷できる果実生産の推進、「古座川ゆず平井婦人部」には加工品の販売促進支援と加工施設整備支援を強化した。しかし、加工用ユズの買取価格は70円/kgと低迷したまま、生産者の生産意欲の減退が著しく、このままでは放任園が増加、産地がなくなる可能性も出てきた。このため平成14年に「古座川柚子生産組合」は、少しでも手数料や経費を減らすことで買取価格を上げようと、農協に委託していた搾汁・販売事業を生産組合で行うことを決めた。これによって、加工用ユズの農家販売価格は持ち直してきた。しかし、まだ不安定な状態であった。

### カ 「柚子産業振興と過疎を考える会」の結成

平成11年、過疎を少しでも止め、若い人が定住し生活できる産業が必要と呼びかけ、有志による「柚子産業振興と過疎を考える会」が結成された。平成13年、所得や雇用の確保に努め、地域が自立し、地域の魅力を未来に継承することが重要であると考え、新山村振興等農林漁業特別対策事業を導入し、女性若者等活動促進施設（加工場等）を建設することを決めた。

また、「平井ゆず対策懇談会」が幾度となく開かれ、様々な対策が検討されることとなる。

## キ 「古座川ゆず平井の里」設立

生産・加工・販売が一元化されていないため、加工用ユズ価格は平成14年以前に比べ持ち直しているものの、依然として不安定であり、順調に伸びつつある二次加工においても、加工原料の供給等に不安が生じて来ていた。平成15年、「柚子産業振興と過疎を考える会」が中心となり、「地域づくり研修会」を開催し、それを契機に、「平井の里づくり～新組合設立準備会」を立ち上げた。

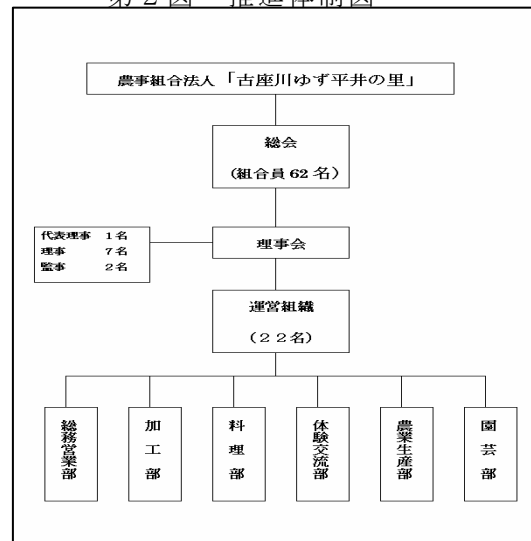
「柚子産業振興と過疎を考える会」に「古座川ゆず平井婦人部」、「平井友の会」等と一緒に新しい組織を設立し、平井の看板である『ゆず』を中心にした「平井の里づくり」に取り組むことになった。平井集落に在住し農業従事者である62人が出資者となり、平成16年4月、ユズを中心とした農業経営の安定を図ることにより、平井集落の良好な農業・農村環境を保全する。また地域内での安定的な雇用機会を創出することにより、若年層の地元定着を促し地域の活性化に寄与する。これら目的のため農事組合法人「古座川ゆず平井の里」（以下、「平井の里」という。）が設立された。

### (2) むらづくりの推進体制

新しい組織は、平井集落の特産品であるユズを中心に、搾汁、二次加工、販売等一貫した効率的な業務整備、弁当・仕出し調理業務、加工や収穫を体験する交流事業を核とした情報発信、主として耕作放棄地の発生防止は言うに及ばず、平井地区内の新たな農地管理と生産の担い手として活動することとなった。

古座川柚子生産組合の施設での搾汁作業の受託は「平井の里」が業務を引き継いで、「古座川ゆず平井婦人部」は加工部に、「平井友の会」は料理部に、また、体験交流と農作業の受託はそれぞれ関係する部署で行うこととなった。組織の概要は以下の通りである。

第2図 推進体制図



○役員 理事：8名（代表理事1名） 監事：2名

○運営組織 22名

総務営業部（8名） 総務、経理、加工計画、販売管理、原料仕入れ

加工部（14名） ユズ加工品の製造、加工場及び機械・器具の保守管理

料理部（3名） ユズ加工品以外の製品の製造、仕出し料理、弁当、みそ、もち等の加工・調理及びその商品企画

体験交流部（3名） 加工体験教室、農産物収穫体

験等顧客との交流見学・視察の対応

農業生産部(5名) ユズの栽培(利用権設定した農地)、組合員所有のユズ園の作業受託管理、その他の関連業務

園芸部(2名) 集落内の環境美化活動の実施

\*複数の部署を兼任する従業員有り。

○組合員 62名

## ■ むらづくりの特色と優秀性

### 1. 農林生産面における特徴

#### (1) 生産・加工・販売の一元化

「古座川ゆず平井婦人部」が結成された昭和60年以来、「古座川柚子生産組合」が生産、農協が搾汁及びユズ果汁販売、「古座川ゆず平井婦人部」が二次加工販売といった体制で各者それぞれの組織であったが、「平井の里」がユズの生産、加工、販売を一体的に行うようになり事業の統合・効率化を図った。これによって平成18年度には、加工用ユズ価格は135円/kgを超え、生果価格は350円/kgと平成12年のおよそ2倍となり、安定的な生産が可能となった。また、多様な加工商品と販売先を開拓したことにより商品の知名度が広まった。



写真2 平井のユズ園

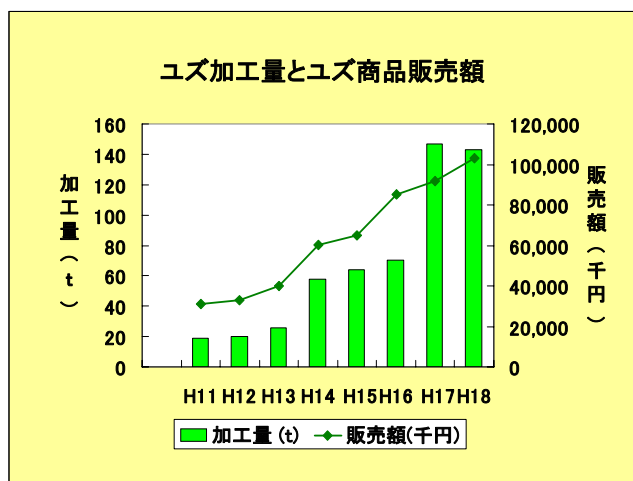
これらの取組によってユズの農家買取価格は、上昇して安定化し、加工原料としてのユズ果実使用量も平成15年度から平成18年度にか

第3図 ユズ加工量とユズ商品販売額

けて2倍以上の伸びとなった。加工品の販売と共にユズの果実販売も伸びており、ユズ農家の生産安定につながった。

加工商品については、大手スーパーや外食産業からの引き合いが多くなっており、商品の品質保持、商品価値の向上の面から販売店を限定する契約方式を取るようにもなっている。今後、このような需要増に応えるため、原料となるユズの生産拡大、

「平井の里」の従業員の増員等を実施していく考えである。



## (2) 新たな地域農業の担い手

また、「平井の里」は、地域の生産者の高齢化を踏まえ、農地の遊休化を防ぐとともに、地域の農地管理・農業生産の担い手となるべく、当初から農事組合法人として活動し、平井集落はもとより近隣集落からも施肥、せん定、防除、収穫作業等農作業の受託を行ってきた。平成19年には農業生産法人の資格を得て、ユズ園60aを借り受け、自ら“農業者”として活動を開始する。今後、生産活動を止める高齢者の農地を借りることはもとより、自らユズ栽培地を拡大し、多くの需要に応えるためのユズ生産に邁進することとしている。

また、「平井の里」は現在従業員が41人となり、このうち常勤職員は6人で、健康保険、厚生年金等福利厚生面でも充実させており、地域の担い手として期待されている。

平成19年度からは「平井の里」の定款を改正し、平井集落以外の古座川町内のユズ農家も組合に加入できるようにし、さらに平井集落以外の古座川町全体へユズ栽培面積の拡大を図ることとしている。

今後は休耕田の利用や農地の再編整備等により、作業性の良い一括して管理ができるユズ園の整備を行い、新たな農業の担い手が参入しやすい条件を整えることを目標としている。

法人の立ち上げから3年、慎重な経営が行われているが、加工品販売の利益をユズの買い取り価格を上げることで生産者に還元し、生産者の経営向上を図っている。このことによって、生産意欲が高まり、栽培面積の増加や「平井の里」以外にも新たな農業の担い手の創出につながる可能性も期待できる。

## (3) 多様な商品開発と販売先を確保

平井集落出身者によるロコミ販売から始まった加工販売事業は通信販売やネット販売等の直接販売、量販店やデパート等への卸売販売、外食産業の委託加工など多様な流通を確保している。「古座川ゆず平井婦人部」の最終年度である平成15年度販売額は6,500万円だったが法人設立後3年で1億円を超えた。加工原料としてのユズ果実使用量は平成15年度64tだったのが18年度には143tとなった。また現在、ユズ加工品は「柚子飲料（柚香ちゃん）」、「柚子ジャム」、「柚子たれ」等20種類を数え、大手流通業者、ファーストフード業者等から多数引き合いがあるものの、原料供給が追いつかず断っている状況である。このため、新たな生産者である「平井の里」による生産拡大を図り、より多くの人に、平井産のユズ製品を味わってもらおうことが今後の大きな課題となっている。

## (4) 女性の経営参画

「平井の里」の女性組合員は40人で組合員全体の64.5%を占める。また女性理事は2人で、農事組合法人の方針を決定する力も大きい。さらに常勤従業員は22人中20人が女性であり、運営、アイディアの実行、生産、広報の多くは女性の力で行われている。

「平井の里」の前身である「古座川町ゆず平井婦人部」や「平井友の会」は農家の女性達で組織され、女性の感性をフルに発揮して、ユズの加工販売や郷土料理の調理・販売するなど女性の活躍する場を自分達で見つけ実践してきた。現在は、農事組合法人となり、若い女性達も活動に参加するようになった。女性の感性をフルに発揮して加工商品を開発し、品質の良い、人気の高い商品を世に送り出している。地域の女性が熟年だけでなく、若いも若きも、生き生きと活躍できるような環境づくりをめざしている。



写真3 ユズの加工商品

## 2. 生活・環境整備面における特徴

### (1) 環境整備への取組

平成13年、休校となっていた平井分校（小学校）が廃校になったが、火災による全焼の際の再建も集落で力を合わせて取り組んできた。その校舎や校庭をいつまでも大切にしたいという思いから、「平井の里」では建物の補修や庭の整備を続けている。現在、集会や味噌加工場、災害時の避難場所として機能しているが、近い将来に交流活動の場としての復活を夢に草刈り活動等に精を出している。

また、集落内の環境美化を目指して、花壇の鉢植え等の環境整備について「平井の里」に有志ボランティアで構成する園芸部を発足させ、取り組んでいる。

### (2) 「ゆずむすめ新聞」の発行・・・地区内外への情報発信と交流促進

「古座川ゆず平井婦人部」から引き継いだユズ製品の加工販売事業は、山間の交通条件の悪い地でありながらも成果をのぼしてきた。これまで高度成長期に平井の地を後に都会へ出た多くの平井集落出身者により、ふるさとのお土産としてあるいは贈り物として広められてきた。

現在、「平井の里」では夏と冬に商品のダイレクトメールを送っている。平井集落出身者や新しく縁のできた人に平井集落をより詳しく知ってもらうために、集落の普段の生活を紹介したミニコミ紙「ゆずむすめ新聞」を発行し、集落で採れたユズの葉や茶の実などを添えて送り届けている。夏、冬の発行枚数は各々7,000～8,000部である。「新聞を見たから」と大阪や京都から車でやって来る人も少なくない。



### (3) 若者の定住促進

隣接する下露集落では平成13年に園児2人で始まった保育所があり、現在6人の園児が入所している。内4人は「平井の里」で働く女性の子供である。平井の里で働く常勤従業員22人の内30代以下は8人おり、多くがUターン、Iターンで「平井の里」が設立されてから平井集落に入って来た人である。奥深い山村に若者の定住が進んで来ている。



写真4 「平井の里」の若き従業員達

### (4) 地産地消・郷土料理の伝承

ユズ加工品や果実は県外へ向けて販売する割合が高いが、地元の消費者にも知ってもらうため地域のイベントや直売所で販売している。特に、加工品は古座川町内の直売所と旅館併せて3箇所、東牟婁・新宮市では20箇所以上の直売所、小売店で販売されている。イベントへの参加は、古座川町では4月の桜まつり、11月の古座川秋まつりに出店している。

生活研究グループの事業を引き継いで、仕出し料理や弁当の注文を行っている。集落内だけでなく古座川町内へ広がりを見せている。地域の食材を用い、地域に伝わる料理をメニューに、作り手の真心を込めて人々に届けている。

### (5) 食農教育の実践

古座川町近隣の小中学生の社会見学を受け入れている。「平井の里」の若い従業員の何人かも小学生の時にユズ飲料のキャップ取り付け作業などを経験したことがあるなど、息の長い取組となっている。

また、大学生のユズ収穫や高校生の職業体験実習の受け入れや地区外や県外の団体の柚子コンニャクづくり体験の受け入れを行っている。学生達は卒業後も里を訪れてくれたり、商品を購入するなど地域の応援団的な役割を担っている。交流は広く長く続き、平井集落及びユズへの関心を高めている。

### (6) 「高齢者への生きがいづくり」高齢者対策

「平井の里」はヨモギ、ダイコン、コンニャクイモ等の加工品の原料を地域の高齢者から買い上げている。また、佃煮に使うサツマイモの茎は、地域の高齢者に1箇所に集まってもらい葉を除くなどの調整作業を行っている。

ダイレクトメールの中へ平井集落の自然を入れるという企画の中で、これまで楓の葉、茶の実などを入れてきた。高齢者には葉や木の実等の採取を依頼している。

今後、一人暮らしの高齢者が多くなると思われることから、町の社会福祉協議会とも連携を取り、高齢者や独居男性への食事の宅配も考えている。



第 2 表 行事一覧表

むらづくり 組織等の名称	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	桜まつり				平井地おどり			柚子収穫 古座川町農 林業まつり			おろし大根 栽培説明会	
総務営業部	ゆずむすめ 新聞発行	生産組合・ 平井の里合 同役員会、 着花調査	ゆずむすめ 新聞発行	衛生講習会 開催	視察受入 (白浜町)	ゆずむすめ 新聞発行		ゆずむすめ 新聞発行	授産施設見 学受入、古 座小学校見 学受入	視察受入 (京都青 果)	視察受入 (三重県紀 宝町・東京 ・三尾川小 ・熊野市)	視察受入 (国土交通 省資源局・ かつらぎ町 他)
(環境美化 活動)	プランター 植栽	花壇の植換 え		旧平井分校 周辺清掃活 動	旧平井分校 教室清掃活 動		旧平井分校 周辺草刈		旧平井分校 周辺草刈			校庭花植栽
(生活研究 活動)	郷土料理伝 承(うず み)			郷土料理伝 承(田舎み そ)		郷土料理伝 承(うずみ ・奈良あ え)				郷土料理伝 承(うず み)		
(ワークシ ョップ)				説明会		検討会実施	検討会実施	研修会実施			意見集約	事業計画
加工部	ゆず製品づ くり(通 年)新商品 開発			衛生講習会 開催				柚子初搾り			新商品開発	
料理部	よもぎもち ・桜餅づく り平井の田 舎みそづく り(通年)	よもぎもち ・桜餅づく り	仕出し料理	衛生講習会 開催		仕出し料理 (2回)	仕出し料理 (3回)	仕出し料理 (3回)	仕出し料理 正月準備鏡 もちづくり	仕出し料理	仕出し料理 (2回)	仕出し料理 (3回)
体験交流部		姫ひじき研 修受入		勝浦いちご 栽培農家研 修受入		柚子収穫ポ ラバイト事 業準備打ち 合わせ	柚子収穫ポ ラバイト事 業準備打ち 合わせ	こんにやく づくり体験 受入(2団 体)、柚子 収穫ポラバ イト事業				
農業生産部	柚子苗定植		雑草草刈り ・施肥・消 毒	オーナー制 募集、柚子 園栽培日記							ゆず園下刈 り	施肥・剪定
(連携)古座 川柚子生産 組合		生産組合・ 平井の里合 同役員会、 柚子着花調 査	生産組合総 会	着果調査				ゆず目なら し会				